

ろうが、庶民の精神病に対する認識を知る上で重要であろう。四番目に、民間療方への評価や認識を整理する必要がある。神社仏閣等における民間治療は、当時の西欧における治療法への関連づけによってポジティブな解釈の道も開かれていたことが伺われる。最後に五番目として、「情報の共有と伝達」という課題がある。『精神病者私宅監置ノ實況及び其統計的觀察』の精説が単にオタク的な理解や知識の蓄積にとどまっていってはならない。このような論文が世代を超えて読み次がれていくことを念頭におき、高等教育機関における医療史の教育的側面の重要性を強調したい。

(平成十五年十一月例会)

本間玄調(棗軒)について

荒井保男

本間玄調(棗軒)は幕末、水戸藩の生んだ名医である。蘭漢折衷派に属し、華岡青洲流外科の大成者と稱せられ、わが国最初の脱疽下肢切断術施行者として、野兎病の最初の記載者として名高い。

玄調の出身は常陸國小川村(現小川町)であるが、このような僻村に、忽然として名医が出現したのではない。生まれるべくして生まれた感が深い。先ず、その家系をみてみよう。

始祖 本間道悦

本間家の祖は大和國本間村の出といわれ、医家としての初

代は道悦である。大垣藩に仕える本間勝資の三男で、寛永十四年(一六三七)の島原の乱の際、十五歳で従軍、兄と共に功を立てたが、その時、内股に槍傷を受け、それがもとで跛(びっこ)になってしまい、武士たる道を断念し、医師となった。

江戸に出て開業、江戸在住の名医先輩を尋ねて研鑽し、その医術は優れたものとの評判を得ていたという。延宝八年(一六八〇)江戸深川の草庵に隠棲していた松尾芭蕉がたまたま病を得て道悦の診療を受け、以後親交を結び、道悦は芭蕉に医学を教え、道悦は松江と号して俳諧を学んだ。この頃、道悦は常陸の國の小川に移り住む。

芭蕉の名文「鹿島話」の末尾に「歸路自準亭に宿す」と題して、芭蕉、曾良、道悦(松江・自準亭)の連句が収載されている。

二世 本間道因

道悦に子がなく、同じ蕪門の俳人友松五郎兵衛を養子とした。俳号は「友五」。

三世 本間道仙

三世の道仙は道因に養育され、道悦から医術を伝授された人で、陸奥國森山の出身。

四世 本間道意

道意は道仙の実子である。医師としての学問も積み、仁術を施した名医であったと伝えられている。延享四年(一七四七)水運の便がよく、新興の地であった常陸の小川に転居し

た。明和五年（一七六八）馬場村の村山儀衛門の長子を養子とした。

五世 本間玄啄

玄啄は幼少より読み書きに優れ、折から転居して来た本間道意に師事。道意はその才能と精進ぶりに心惹かれ、両親に懇願して養子とした。玄啄二十九歳、水戸藩医・原南陽の門に入り研鑽を重ね歸郷して五代目を継いだ。以後診療に専念。玄啄は「医師の相互研究の場を作り、医療技術を磨き合うこと」の必要性を痛感して、文化元年（一〇八四）玄啄五十歳のとき、水戸藩六代藩主徳川治保（文公）に郡宰小宮山楓軒を介して、医学研究所の設立を願ひ出て許され、小川城跡に「稽医館」を設立した。稽医館はやがて拡充して水戸藩の郷校と発展し、当時に於ける優れた医学研究機関となった。

文化二年、玄啄は苗字帯刀を許されている。

六世 本間玄有

潮来に近い玉造村の出身で、学才に優れ、玄啄の懇願で本間家に入り成人した。十九歳で、水戸に赴き原南陽の薫陶を受け、歸郷して玄啄を助けて診療に従事し玄啄の長女と結婚。この夫妻の子が本間玄調である。玄有は稽医館の発展と運営に大きな力を盡したが、健康に恵れず、義弟の道偉に家業を譲った。

十世 本間道偉

本間道偉は玄啄の長男である。十三歳で原南陽の門に入り、儒学を藤田幽谷に学び、江戸及び京都に遊学した。歸郷して

稽医館の中核となり、庶民救済に専念した。

天保六年（一八三五）藩命により召されて、郷医から上座表医師に拔擢され、徳川斉昭の母瑛想院の病気を恢復させ、また天保十三年斉昭公自身の病氣診療に腕をふるい、斉昭公よりその医術が激賞された。

間もなく弘道館の医学館教授に任命され、八十歳で没した。

八世 本間玄調

玄啄夫妻は娘「ぎそ」に玄有の子女調を迎えて本間八世とした。天下の名医、本間玄調の誕生であるが、玄調のその人と学問については次回に譲りたい。

（平成十五年十月例会）

『本草品彙精要』巻二の研究

肖 永芝

『本草品彙精要』は中国明代の弘治十八（一五〇五）年、弘治帝の命で編纂された本草書で、美麗な彩色図のある原写本一本が献上されただけだった。本書の条文は基本的に宋代「証類本草」からの抜粋・再編だが、その絵図の美しさゆえ、のち多くの複写本が製作されている。一方、彩色絵図があるため明清代ともに刊行できず、原写本や伝写本だけが宮廷等に秘蔵されていた。しかも近代になると、それらの美しさが注目されて世界各地に流出したため、伝写系統の解明すら困難だった。